



Next is us

日体魂を受け継ぐ者

前向きに、たくましく、
スポーツの力、平和と命の尊さを
世界の未来に向けて発信していく

明治24（1891）年8月に学校法人日本体育大学の前身となる「日本体育会」が創設された。建学の精神「體育富強之基」は創設者の日高藤吉郎により掲げられたものである。日高が友人の勝海舟に「體育者富強之基」の揮毫を依頼したことからその思いの強さがわかる。さらに、明治31（1898）年1月に閑院宮載仁親王殿下を総裁に推戴し、「體育富強之基」の書をご宸筆され、この文言が広く知られることとなった。

「體育富強之基」は「體育は富国強兵の基本である」と読み換えられ、體育の振興は明治新政府が掲げた富国強兵策の推進に繋がるものであった。しかし、第二次世界大戦後、昭和24（1949）年、日本体育大学体育学部設置に際し、国際平和の実現に寄与する国づくりを念頭に、その精神は、「體育は肉体をより強靱に富ます基礎である」と解されるようになった。戦後の復興と平和への願いを背景に、健康で豊かな生活を送るための営みとして、スポーツに新しい役割が期待されるようになったのである。

體育富強之基

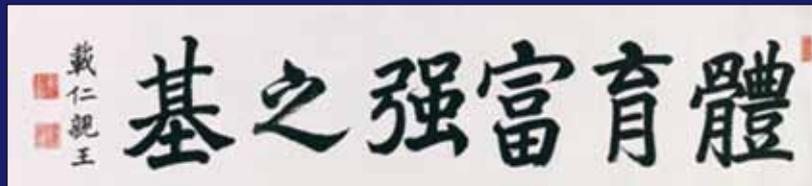
日体大を
極める
Episode 3

そして、昭和から平成の世となり、建学の理念に「真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である」と新たな解釈が加えられ、今に至る。本学が創設以来、一貫して、スポーツを通じ、全ての人々の願いである「心身の健康」を育み、あわせて世界レベルの優秀な競技者・指導者の育成を追求し続けてきたことがその解釈の根底にある。

高齢化が進む中での健康寿命の延伸、新型「コロナウイルス」感染症の収束などの重い課題を前にして、今あらためて「命」「健康」の尊さを痛感する。まさに「體育富強之基」は人や社会の有り様の本質を突いていると言えるだろう。時代がどのように変わっても、日体大の建学の精神は普遍である。



建学の精神「體育者富強之基、戊戌（つちのえいぬ）仲秋、海舟」勝 海舟書 明治31（1898）年 学校法人 日本体育大学蔵



建学の精神「體育富強之基」閑院宮 載仁親王殿下ご宸筆 明治32（1899）年 日体大図書館蔵



誰一人取り残さない

▷持続可能な開発目標 (SDGs) は、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っている。先進国、発展途上国を問わず、さらに企業や市民社会、そして一人ひとりに至るまですべてに目標達成に向けた行動を求めている。コロナ禍において、その意味の重さをあらためて感じずにはいられない。

▷2017年度に開設されたスポーツ文化学部、特別支援学校教諭免許取得課程 (体育学部体育学科) が揃って完成年度を迎えた。いずれも平和な社会を構築し、誰もが健康で豊かに暮らすことを目指す取り組みである。世界や地域社会に向けて、誰一人残さない共生社会を実現するための日体大の新たな挑戦だ。

▷困難な状況にありながら、学修や実習等に励み成果を挙げてきた学生たち、これを支えてきた教職員・関係者の努力に敬意を表したい。そして、日体ファミリーを挙げて、社会課題の解決に挑み続けていくことを、年初にあたり誓う。

学報NITTAIDAI (ニツタイダイ) 63号

発行日●2021年2月5日

発行●日本体育大学広報課

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

http://www.nittai.ac.jp/

制作協力●(株)図書出版

Special Contents

03

すべての子どもたちにいのちとスポーツの喜びを

～特別支援学校教諭一種免許状取得に向けた教育体制・学生たちの取り組み～

特別支援学校教諭を知る、目指す

長沼 俊夫 教授 体育学部 体育学科

教員採用試験合格者が語る

障がいを持つ子どもたちから学んだこと、ともに実現したい夢

採用試験合格は通過点。目標は「幸せを感じる瞬間を作る教師」になること。

戸谷 泉水 (茨城県教員採用試験・特別支援学校合格 / 体育学部体育学科4年)

すべての人に、生涯にわたってスポーツに親しんでもらえるような社会を目指して。

志賀 元洋 (愛知県教員採用試験合格 / 体育学部体育学科4年)

09

さらなる飛躍の年を迎えるスポーツ文化学部

学生目線に立ってチャレンジを続け、世界の期待に応えたい

八木沢 誠 教授 スポーツ文化学部長

日体大の強み、武道の精神を活かしつつ、グローバルな視点で思考できる国際人を育てる

齋藤 一雄 教授 スポーツ文化学部 武道教育学科長

学生の国際舞台への第一歩を力強く支援するため、確固たる基盤を固めてきた4年間

金田 英子 教授 スポーツ文化学部 スポーツ国際学科長

13

海外体験をキャリアに活かす～OB・OGメッセージ～

<国際交流センターの活動Vol.3>

チャレンジを続け、後悔しないキャリアを積んでいきたい。

秋山 健氏 (ドイツへのサッカー留学を経て、楽天株式会社勤務)

限界を定めずに多方面の分野に挑戦し、レベルアップしたい。

浦谷 汐音氏 (中学校教諭を経て、ワーキングホリデーでオーストラリア滞在中)

15

Next is us 日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～ 第15回

怪我や悔しい経験、その全てをバネにして、世界のトップが見えてきた

小山 玲央 ソフトボール男子

19

news & topics

UNIVAS CUP / UNIVAS AWARDS 2019-20受賞!

第三管区海上保安本部と包括連携協定を締結いたしました!

伝説のゴルファー【ジャック・ニコラス氏】よりゴルフ部にメッセージが届きました!

のちとスポーツの喜びを

向けた教育体制・学生たちの取り組み～



おける教育実習など、日体大ならではの特色を活かした教育を展開しています。子どもへの多様な支援が求められる現代で、特別支援学校教諭へのニーズはますます高まっています。「スポーツ」・「身体」「生命」をキーワードとしたさらなる社会貢献に向け、意欲溢れる学生の挑戦を期待します。

体育学部体育学科において、2017年度入学者より、特別支援学校教諭一種免許状の取得が可能となる教育体制が整備されました。完成年度にあたる今年、この課程を履修し採用試験に合格した学生が教育現場・特別支援学校の教壇にデビューします。長年蓄積してきた教員・指導者養成の実績はもとより、日本体育大学附属高等支援学校に

特別支援教育実習までの流れ

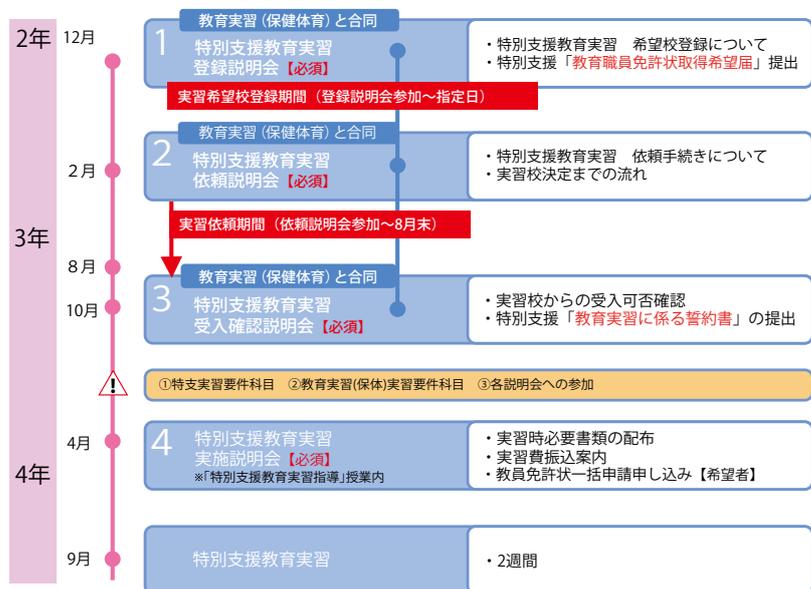
「教育実習履修要件」

→教育実習履修前年度までにクリアしていることが必要。保体+特支の要件を満たすことが必要となる。

「教員免許取得要件科目」

→法令に基づく教員免許取得に必要な科目で、特別支援教育実習の履修要件科目とは別に定められている。

→免許取得要件には、科目の他に基礎免許状が必要となるため、教員免許状(保健体育)の取得(見込み)が必要となる。



教員を強く志望する学生が多い本学では、体育学部・スポーツ化学部・スポーツマネジメント学部「高等学校教諭一種免許状(保健体育)」、教育学部健康学科「養護教諭一種免許状」、教育学部健康学科「養護教諭一種免許状」、児童スポーツ教育学部「小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状」等、学部・学科の専攻に合わせた教育職員免許状が取得できる課程を設置しています。そして、2017年度入学者より、体育学部体育学科で取得可能となったのが特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)です。

特別支援学校教諭になるには、中学・高等学校等教諭の免許状のほかに、特別支援学校教諭の免許状を取得することが原則となります。つまり、中学・高等学校の免許状と特

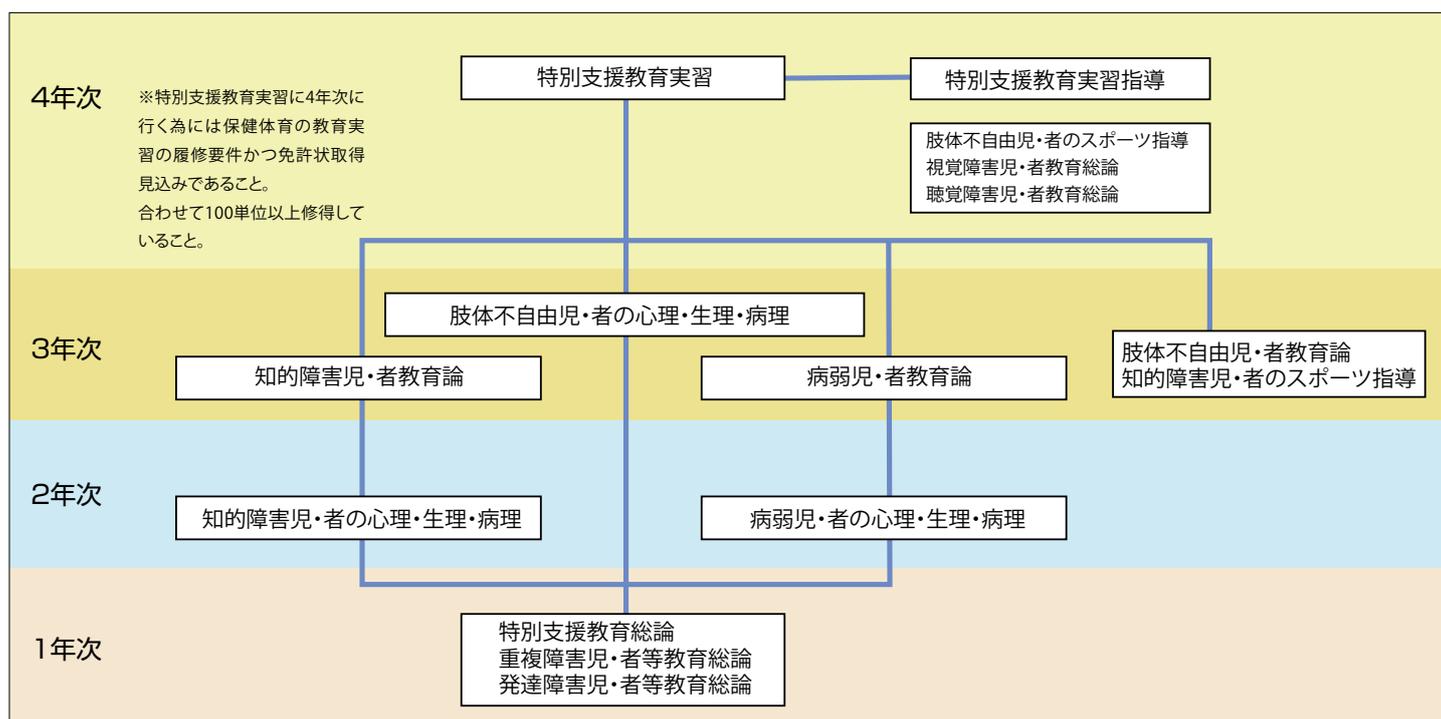
別支援学校教諭の免許状の両方取得するための学修が必要になります。本学の場合、1年次から特別支援学校教諭を明確に志望している学生もいますが、漠然とした興味や教員になつてからの必要性を感じて履修する学生も一定数います。しかし、動機は異なりますが、4年生まで履修を続け、特別支援教育実習を終えると「特別支援学校の教員になりたい」と実感した。来年の教員採用試験は、特別支援学校で受けた」と思いを新たにしている学生も見られました。

特別支援学校教諭をはじめ、すべての教育職員免許状取得の学修にあたっては、「教職セクター」が力強くサポートしています。ぜひ、気軽に相談に訪れてください。

すべての子どもたちに

～特別支援学校教諭一種免許状取得に

特別支援学校教諭一種免許状(知・肢・病)取得に係る科目 先修条件確認図【体育学科】



- ※ 「知的障害児・者の心理・生理・病理」「病弱児・者の心理・生理・病理」「肢体不自由児・者の心理・生理・病理」を履修しようとするものは、その履修しようとする年度の前年度末までに、『特別支援教育総論』『重複障害児・者等教育総論』『発達障害児・者等教育総論』の単位を修得しなければならない。
- ※ 「知的障害児・者教育論」を履修しようとするものは、その履修しようとする年度の前年度末までに、『知的障害児・者の心理・生理・病理』の単位を修得しなければならない。
- ※ 「病弱児・者教育論」を履修しようとするものは、その履修しようとする年度の前年度末までに、『病弱児・者の心理・生理・病理』の単位を修得しなければならない。
- ※ 「特別支援教育実習」を履修しようとする者は、「特別支援教育実習指導」を履修するとともに、次の要件を満たさなければならない。
 - (1) 「教育実習」の履修要件を満たしていること。ただし、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有する者は、この限りではない。
 - (2) 「特別支援教育実習」を履修しようとする年度の前年度末までに、次に掲げる授業科目の単位を修得しているとともに、合わせて総修得単位数100単位以上を修得していること。
 - 「特別支援教育総論」・「重複障害児・者等教育総論」・「発達障害児・者等教育総論」・「知的障害児・者の心理・生理・病理」・「病弱児・者の心理・生理・病理」
 - 「肢体不自由児・者の心理・生理・病理」・「知的障害児・者教育論」・「肢体不自由児・者教育論」・「病弱児・者教育論」・「知的障害児・者のスポーツ指導」

日本体育大学附属高等支援学校(北海道網走市)

日体大創立125周年を機に、北海道網走市からの誘致を受け、2017年4月に開校しました。建学の精神のもと、障がい者スポーツ教育の必要性の高まりを受け、学校法人日本体育大学が世に先駆けて設置したものです。「スポーツ」「劳作」「情操」の3つを教育の軸に、網走市すべてを学びのフィールドとして、スポーツや諸活動を通した人間性や社会性の涵養、生徒の豊かな心と自立を育む教育を展開しています。さらに、特別支援教育実習の実習受入先として日体生の学び・実践の場ともなっています。

*記事では、わかりやすさを優先し「障がい」「障害」の表記を使い分けています。



特別支援学校教諭とは？ 求められる資質・人材とは？ さらに、日体大の教育体制や指導にかける思いなどについて
長沼俊夫先生にうかがいました。

障がいのある子どもたちの困難を 理解するための「知識」を学ぶことは、 教師になるための「入り口」

◆特別支援学校教諭とは

「特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者に対して、幼稚園 小学校 中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。」（学校教育法第72条）とあります。つまり、小・中・高等学校と同様の教育をすることに加えて、障害による困難を軽減し克服する力を培う教育を行う教育課程が用意されています。具体的には、「自立活動」という特別の指導が行われます。特別支援学校（特別支援学級も同様）の教員は、各教科や特別活動などの指導に加えて「自立活動」の指導を行います。自立活動は、児童生徒一人一人の実態に合わせて目的や指導内容を作成する「オーダーメイドの授業」と言えます。教員には、障害特性や発達についての知識や児童生徒を深く理解する洞察力が求められます。

◆現状と社会的ニーズ

特別支援学校の教員には、小・中学校等の教諭免許状（基礎免許）に加え特別支援学校教諭免許状が必要で（教育職員免許法）。しかし、特別支援学校教諭免許状を有する人が必要な教員数に対して少なかつた状況が続

いたため、「当分の間、小・中学校等の教諭免許状を有する人は、特別支援学校の教諭となることができない。」という特例措置が講じられてきました。実際に、特別支援学校に勤める教諭の約1/4が「特別支援学校教諭免許状をもっていない」状況が、ここ20年ほど続いています。平成19（2007）年に「特殊教育」から「特別支援教育」へと理念と制度が転換されました。さらには、インクルーシブ教育システムの構築に向けて特別支援教育の益々の推進が求められる状況となりました。中央教育審議会答申（2016）が、特例措置を外すため「2020年度までに特別支援学校教諭免許状の取得率を100%にする」こととしました。以降、ほとんどの自治体の教員採用試験では、「特別支援学校教諭免許状を取得した者」が特別支援学校の受験要件になりました。また、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室が増加し続ける中で、小・中学校等の教員採用試験においても特別支援学校教諭免許状を有する人を優遇する自治体も増えてきています。

◆求められる資質・能力

基本的な資質・能力は、小・中学校等の教員に求められるものと同様です。教科等の指導、生徒理解、生徒指導を適切に指導できる実践的指導力が求められます。加えて、多様な教育的ニーズのある児童生徒に必要な支援



長沼 俊夫 教授

体育学部体育学科

肢体不自由のある児童生徒の障害特性に配慮した教科指導、特別支援教育における教育課程の在り方などをテーマに研究に取り組む。日本特殊教育学会、日本LD学会、障害科学学会、日本肢体不自由教育研究会、日本アダプテッド体育・スポーツ学会ほか所属。



特別支援学校教

をするための、基礎的な知識が必要です。
 ・特別支援教育全般に関する基礎的な知識
 ・障害のある児童生徒の心理や病理に関する一般的な知識
 ・障害のある児童生徒の教育課程および指導法に関する理解と実践的指導力
 などが重要だと考えます。

◆特別支援学校教諭志望者に対する指導

特別支援学校の教員をめざす人に、できる限り「特別支援教育を身近に捉えられる」ように、実際の映像を視聴したり、現場でのトピックなどを紹介したり、疑似体験や演習を取り入れるように努めています。今年は、コロナ禍で対面授業ができず疑似体験などができないのが残念です。特別支援学校でのボランティアや見学の機会を情報提供して、「百聞は一見に如かず」を体験してもらえるといいな、と考えています。

特別支援学校の教員を志望する学生には、自信と希望をもって「先生になりたい。」という意志を最大限にサポートしたいと考えています。教員採用試験の対策にも支援と指導をします。また、特別支援学校教諭免許状を取得して中学校、高等学校の教員になる学生には、とても大きな期待をしています。中学校、高等学校で特別支援教育の「マインド」を発揮して活躍してくれること。それが、インクルーシブ教育の推進力になつてもらえると信じています。

◆日体大の教育体制の強み

一番の強みは、大学附属高等学校を支持していることです。網走という遠隔地ではありませんが、日本体育大学のビジョンとミッションをひとつにする附属高等学校の教育実践と教員養成課程との往還的な関わりを深めていくことが、大切だと思えます。特別支援教育実習でお世話になっていますが、他の取組みでも附属高等学校と大学とで互いが「win-win」となる連携・協働ができます。

ことを考えていきたいです。

◆理想の教師像、学生に対する期待

「特別支援教育は教育の原点である。」などと言われることがあります。その理由



由は様々あると思います。私は「子ども一人一人を大切にすること」ももちろん重要ですが、「できない、わからない」を子どものせいにはしない。」という考え方、教師の姿勢がとても重要だと思っています。養護学校の教員時代に「教えるということ」(大村はま)を読みました。「教師つてすごい、こんな教師になつてみたい。」と身震いました。その大村氏の文章で「優秀のかあなたに」が大好きです。紙面の都合上ご紹介できませんが、web検索をせひ、してみてください。「障がいがあるから(できなくても)仕方が無いよね。」は、禁句です。すべての子どもが、持てる力、可能性を最大限まで発揮することを「本気で、根気強く」指導できる「元気な」教師をめざしてください。特別支援教育に係る科目で障がいのある子どもたちの困難を理解するための「知識」を学ぶことは、教師になるための「入り口」のようなものだと思うください。障がいのある子どもたちの教育を学ぶことから、家庭環境や経済的な困難、日本語の理解の困難、LGBTなどの生きづらさなどを抱えた子どもたちの教育にも目を向けられることが重要です。その先に「教えるということ」の本質的な意味が、見出されるのではないのでしょうか。

そして、皆さんに対する期待・希望です。日体大で学び特別支援学校の先生になつた方々が、「元気で、本気で、根気強く」学校現場で活躍する姿を空想しています。授業研究会の講師で特別支援学校に伺つたり、後輩の教育実習で巡回指導したりする際に、そうした「現実の姿」に出会える日が、実現することを楽しみにしています。



合格者が語る

学んだこと、ともに実現したい夢

Q1.特別支援学校教諭を目指した理由は？

体育やスポーツ、空手道を通して、障がいのある子どもたちに、目標を達成することや夢を追うことの素晴らしさを伝えたくてからです。目標を達成することに子どもたちの心の中に生まれるのは、「できた!」という感情です。これは子どもたちが生活する中で原動力となり、スポーツや体育、空手道を通して夢を持つことや自立に繋げることができると思いました。多くの職種の中でも、障がいのある子どもたちに学習面や生活面など様々な角度から関わることのできる特別支援学校教諭を選びました。重度重複障害の弟の影響が大きかったと思います。

Q2.特別支援学校教諭のための学習や活動で印象に残ったことや目標を実現した今の心境を教えてください。

私が一年生の時に日体大に初めて特別支援教育の教職課程ができましたが、一年目とは思えないほど先生方の指導が手厚く感動しました。初めはトレーナー志望だったため、軽い気持ちで始めましたが、先生方の授業のおかげで「特別支援学校教諭に絶対になる」という夢を持つことができ感謝の気持ちでいっぱいです。それからは教員採用試験に向け勉強を本格的に取り組みました。コロナウイルスの影響で部活動の空手道ができなくなったこともあり、気分転換することが難しかったですが、「努力しないで教員になったら、中身スカスカの子どもに何も伝えることができない教員になるのではないかと毎日思って、勉強に励みました。特に二次試験の小論文や面接に関しては多くの先生方にオンライン等で対策していただき、自信をもって試験に挑むことができたと思います。採用試験に受かり、やっとスタートラインに立つことができ少し安心しています。

Q3.教育実習で学んだことや思い出を教えてください。

特に印象に残ったことは、教材研究や準備などやった分だけ子どもたちは応えてくれることです。特別支援学校の子供たちは様々なことに興味を持ち、何に対しても一生懸命に取り組みます。教員も努力を怠らず、向上心を持ち続けることが子どもたちの自立に向けた最大のサポートになるということを教育実習では学ばせていただきました。

Q4.後輩へアドバイスやメッセージをお願いします。

生徒一人ひとりの成長を一番近くで感じることができるのは特別支援学校教諭ではないかと思っています。もし、今特別支援学校教諭になりたいと思っている方は、不安や悩みもたくさんあると思いますが、教壇に立った自分や話を聞いて喜んでくれる生徒たちをイメージして、これからも部活動と両立しながら勉強を頑張ってください。

Q5.今後の抱負をお聞かせください。

私の目標は「幸せを感じる瞬間を作る教師」になり、特別支援学校に空手道の授業を取り入れ、いつか空手道部を作ることです。また、障がい者スポーツ大会やパラリンピックについての学習や動画視聴などを積極的に行き、「今度は自分が選手として、たくさんの人に夢を与えたい」という生徒を増やし、自信を持って社会に出ていけるようなサポートを全力でしていきたいです。

採用試験合格は通過点。
目標は「幸せを感じる瞬間を作る教師」になること。



戸谷 泉水(とや いずみ)

茨城県教員採用試験・特別支援学校 合格
体育学部体育学科4年／高崎商科大学附属
高等学校出身／特別支援教育実習先：茨城
県立鹿島特別支援学校／所属部活動：空手
道部



障がいを持つ子どもたちから



志賀 元洋 (しが もとひろ)

愛知県教員採用試験・高校(保健体育)合格
 体育学部体育学科4年 / 愛知県立豊田西高等学校出身 / 特別支援教育実習先: 日本体育大学附属高等支援学校 / 所属部活動: 硬式野球部



すべての人に、生涯にわたって
 スポーツに親しんでもらえるような社会を目指して。

Q1. 高校教諭を目指した理由は?

生涯スポーツの発展に貢献したいと考え高校教諭を志望しました。高校卒業後は各個人が運動の習慣を心がけなければ機会がありません。高校時代の一つでも「楽しい」「好きだ」と感じられるスポーツに出会えたら運動習慣を持ってもらうことができるのではないかと考えています。

Q2. 教職課程や特別支援学校教諭のための学習や活動で印象に残ったことや目標を実現した今の心境を教えてください。

都内の中学校で部活動指導員(野球部)をやらせていただいたときのことが一番印象に残っています。生徒は野球が好きで意欲的でしたが、基礎練習になると手を抜いてしまう部員が多かったです。そこで基礎練習にゲーム性を取り入れてやってみました。するとチームメイトと協力し、教え合いながら取り組んでくれました。生徒の実態、心境を考え実施したことがうまくいって大変嬉しかったです。

今の心境としては採用していただき正直、少し安堵しています。来年度から教壇に立たせていただくにあたっては、新人だろうが生徒にとっては一度きりの授業であることを心に深く刻み、準備していきます。

Q3. 日本体育大学附属高等支援学校の教育実習で学んだことや思い出を教えてください。

学んだことは「個に応じたきめ細かな指導」の難しさです。知識としては、こだわりが強くだんなことにも時間がかかってしまう生徒、一方で何事も片付け仕事で済ませてしまう生徒がいることは知っていました。しかし、いざ授業をしてみると進捗具合に大きな差があり、時間配分、声掛けの仕方、課題の課し方など工夫すべき点を多くご指導していただきました。「個に応じた指導」により一人ひとりの特性を把握し、思いやりを持って粘り強く接することで少しずつ伸ばしたい力を身につけていってくれるのではないかと思います。

一番の思い出は日本体育大学附属高等支援学校の特色であるフィールド学習で3年生と「オンネトー」に行ったことです。北海道の大自然を実際に見て、聞いて、感じて学びとっている姿勢は障がいの有無に関係なく心に響いているように思いました。その心の響きを共に感じられてとても嬉しく思いました。

Q4. 後輩へアドバイスやメッセージをお願いします。

「主体的・対話的で深い学び」「生徒目線」など採用試験対策をしていけば学ぶキーワードは多くあります。字面ではなく、ボランティアなどで現場に出て実際に意味を肌で感じ取ることで自身の考えが深まり、話す言葉に熱意が宿ります。多くを学び、多くを感じ取りながら試験対策していくのがオススメです。頑張ってください。

Q5. 今後の抱負をお聞かせください。

「日本一マッチョな教員になる」これが私の理想の教師像です。私自身が健康であること。自分を磨き、生徒と共に高め合える関係性を築くこと。生涯スポーツの発展を自身で体現していること。以上の想いが込められた理想像です。

スポーツ文化学部

◆**学部の狙いや背景**

グローバル化が叫ばれて久しい今日、我が国のスポーツに係わる高等教育機関においては、スポーツを中核に据えた他者との共生のための国際相互理解や国際交流、国際支援、国際貢献が求められています。国も各大学が特徴を發揮した教育・研究を展開することを推進しており、本学がスポーツ文化学部を設立することは、時代の要請に応えた必然の流れと言えます。そこで、このような社会の要請に応えるために、それまでの体育学部武道学科を体育学部から切り離して改組し、「武道教育学科」と「スポーツ国際

◆**特徴**

スポーツ文化学部は、日本人としてのアイデンティティを育成し、日本の文化を正しく伝えられるだけの知識、技術を持った上でスポーツ指導、スポーツ援助による国際交流を行



学科」の2学科からなる「スポーツ文化学部」が新設され、同時に収容定員も増加されました。

える人材の養成を目指しています。「武道教育学科」では我が国固有の身体運動文化である武道や芸道に関する知識と技術を身につけるとともに、国内外において正しく武道や芸道を指導し、伝えることができる人材を育成すると同時に、武道や芸道における技術指導のみならず、日本の「道」の精神を国内外に伝えることができる知識と技術を習得させることを目標としています。「スポーツ国際学科」では諸外国との単なるスポーツ交流だけではなく、国の内外を問わず、スポーツ活動を基盤として社会貢献を果たせる人格や、国際競技連盟やスポーツ関連企業で活躍できる能力、国内の自治体でスポーツを中核とした活動に従事できるスキルなどを獲得し、さまざま

「スポーツは、世界共通の人類の文化である」。スポーツ基本法の前文が示すようにスポーツが果たす役割はますます幅広く重要になっており、日本大が存在を示す機会が広がっています。こうした時代の期待に応えるため設置されたのが「スポーツ文化学部」です。「世界から日本大へ」と「日本大から世界へ」と志を掲げ、日本人としての誇りを持ち、その文化を学ぶことの重要性について理解させること、そして常に世界を視野に入れて学ぶことの大切さを伝えてきました。期待が膨らむ「スポーツ文化学部」の4年間の取り組みと今後の展望を紹介します。

学生目線に立ってチャレンジを続け、世界の期待に応えたい

八木沢 誠 教授

スポーツ文化学部長

専門は剣道（技術論・指導法・文化論など）。日本体育学会・日本武道学会・スポーツ史学会ほか所属。全日本学校剣道連盟常任理事、関東学生剣道連盟常任幹事ほかを務める。

さらなる飛躍の年を迎える

まな場面で問題の解決が図れる、現場で直接役に立つ実践的能力を養えるカリキュラム編成を実現しています。

◆4年間の実績

「武道教育学科」においては、それまでの「武道学科」において実践してきた経験を基に「伝統文化交流実習」を再度ハワイにて行えたこと。特に現地の「ワイパフハイスクール」において日本語を学ぶ高校生たちの協力を得て「実演会・ワークショップ」を行い、より多くの方々に日本の伝統文化に触れていただき、理解を深めていただいたことと本学の知名度をより高められたことが挙げられます。

「スポーツ国際学科」においては、学科の中心的な授業（実習）科目である「スポーツ国際実習」を実施するために、学科長を中心とした先生方の努力によりタイ・チュロンコン大学、ネパール・カトマンズ大学、フィリピン・フィリピン大学といった各国を代表する大学と提携を結んだことは当学部のみならず大学としても大きな実績であると考えています。またここで行った実習は大変意義ある貴重な体験となり、学生たちの大きな財産になったのではないかと思います。また、受け入れていただいた学校の教員、生徒達にも本学の知名度を高められたことだけではなく、体操指導を通して日本という国、または文化の一部を理解してもらえたことは目に見えない実績として挙げることができると思います。

◆現状の課題

学部を目標を実践するために、海外の



方々とより多く接する機会を設けることが大きな課題となります。そのためには国際交流センターが提携している大学はもとより、今後は学部として海外の大学と提携し、学部独自の交流を考えていく必要があると感じています。

また、スポーツ国際学科の学生達には「スポーツ国際実習」の履修要件として、TOEIC IPテストにおいてJICA海外協力隊員派遣基準となる330点の獲得を課しています。これに向けて、英語を苦手とする学生のためのリメディアル教育も考えていかなければならないと思っています。

◆学部の雰囲気・進路

「武道教育学科」の学生については、旧武道学科の頃からの雰囲気が大きく変わった印象はあまり受けませんが、部活動にも学習場面においても大人しく、真面目な学生が多い印象は受けます。また、それぞれの専攻において日本を代表する多くの選手達が在籍していることも特筆すべきことと言えます。主な進路としては特技を生かせる職業、つまり警察官、刑務官などの公務員に就職が決まっている学生が多いようです。

「スポーツ国際学科」の学生については全くの新しい学科ですからバラエティーに富んだ学生達が集まっております。中でもJICAボランティアを希望する学生や海外留学を希望する学生が多く、海外に対して意識の高い学生たちが多く学んでいる印象を受けます。

◆在学生に望むこと

今年度は誰しもがこんな状況になるとは予測することが困難な特別な一年でした。このことは私たち日本に住む者ばかりではなく、全世界の人々が同じように悩み、苦しんだ一年でした。しかし、人類の歴史を遡ってみると、我々人類はこれまで感染症との闘い

の歴史でもあります。この状況はいずれ時間が経てば収束することは明白ですが、今、この時は元々巻き戻すことはできません。目標を見失うことなく、所期の目的・目標に向かって一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。

◆入学希望者に望むこと

様々な入試区分がありますが、「志望理由書」や「面接」では大学卒業後の職業として「教員」を指している人が最も多く、次いで公務員、一般企業と続きます。また、JICA海外協力隊、海外留学などを経て自分自身の可能性を広げたいと考えている人も少なくはありません。しかし、いずれの道に進むにしても勉強することが嫌いではその可能性は広がりません。学部・学科の特性を良く理解し、大学卒業後の夢が実現できるように部活動に学修に取り組みでもらいたいと思います。そのためには我々教員も努力を惜しみません。

◆今後の抱負

今年度で完成年度を迎え、いよいよ一・二期生となる卒業生を送り出す訳ですが、まだ道半ばです。自己点検評価に伴うカリキュラムの見直し、特に国際関係に関する



授業の強化、充実を図ることが急務と考えております。その意味からすると本年度は非対面授業を余儀なくされた訳ですが、逆に考えるとオンライン授業の可能性も見出すことができました。新型コロナウイルス感染症の終息にはまだ時間がかかりそうですが、このピンチをチャンスに変えることが我々に課された使命と考えています。今後も学生目線に立って、新たな取り組みにチャレンジしていきたいと思っています。

日体大の強み、武道の精神を活かしつつ、 グローバルな視点で思考できる国際人を育てる

～武道教育学科の取り組み～



Q1. これまでの「実績」や、特に「注力されたこと」を紹介ください

武道教育学科の特徴として3つの柱を掲げています。一つ目は「武芸理論」の習得、二つ目は「海外交流の実践」、三つ目は「問題解決力の育成」です。

「武芸理論」については武芸に関連する教育論や技術論、精神論、礼法などを学ぶことで

日本伝統の考え方を体系的に理解していきます。「海外交流の実践」については、本学科一番の特徴ともいえる基幹科目の伝統文化交流実習により実際に海外へ出向き、幅広い知識や柔軟な考え方、人と人とのコミュニケーション力を獲得することができます。「問題解決力の育成」については、実践↓振り返り↓修正↓実践を基礎科目や専門科目で繰り返し行うことで4年間を通じ、自身で考え、解決する力を養います。この結果、昨年度の卒業生(武道学科)の進路状況は就職率97.6%と高い水準であり、今年度の武道教育学科初の卒業生においても更なる飛躍が期待されます。

Q2. いま、学科の「課題」として考えることはなんですか?

まず武道を通じて人と人とのコミュニケーションを取る機会を積極的に増やしていきたいと思えます。海外での交流実習以外にも日本にいる外国人と武道を通じて交流する場や武道の魅力を発信できる場を用意し、学生たちのコミュニケーション力の向上や様々な価値観を磨いていければ、今後の人生に必ずつながります。次に、就職率を高水準に保つことです。特に教員や警察官などの公務員への希望者が多いため、積極的な講座の開設や学生の参加を促していきたいです。もちろん一般企業においても就職ガイダンスやスポーツ選手向けセミナーへの参加など、機会を定期的に設け就職先の選択肢を広げていければと思います。

Q3. 在学生に対する評価や期待をお聞かせください

学習においては武道科教育法や稽古論、礼法などを学ぶことにより武道を通じて社会における原理原則を把握し、実際に生かせる基礎的な力を身につけていきます。その成果はクラブ活動にも生かされており、多くの大会で優秀な成績や大舞台での成功をこの4年間で取ってきました。

「将来この仕事につきたい」、「私はこうなりたい」、「試合で勝ちたい」という意欲を持つことはとても大事で

す。しかし重要なのは、そうなりたいために「準備」する意欲です。理想の自分、夢、目標に向けて悔いのない一日一日を過ごして頂き、卒業後も日体大スポーツ文化学部武道教育学科の卒業生ということに誇りを持って生きていってほしいです。

Q4. 今後の抱負をお聞かせください

新型コロナウイルス感染症の影響の中にあっても、多種多様に変化する現状に対応し、適応していかねればなりません。「ピンチはチャンス」と申します。現状をしっかりと見て、今何をすべきかを考えることで進化の機会とすることが理想です。今後はオンラインツールを活用し、本学科の柱の一つである「海外交流の実践」を一層強化していきたいと考えます。また海外への渡



航が回復した際は、今まで以上に武道を通じた交流を行い、武道の精神を持ちつつグローバルな視点での思考ができる国際人を育てていくことが使命であり抱負です。

齋藤 一雄 教授

スポーツ文化学部 武道教育学科長

専門は相撲(技術論・指導法・身体組成など)。日本体育大学相撲部監督。令和二年アマチュア横綱、学生横綱などをはじめ、優秀な選手を多数輩出している。

学生の国際舞台への第一歩を力強く支援するため、 確固たる基盤を固めてきた4年間

～スポーツ国際学科の取り組み～



Q1. これまでの「実績」や、特に「注力されたこと」を紹介ください

今年度入学した学生さんに、本学科を選んだ決め手をお尋ねしたところ、『スポーツ国際実習が面白そうだから』という回答が最も多く、実習への関心の高さがうかがえます。本学科では、3年次にタイ、ネパール、フィリピンから1カ国を選択し、現地の学校で、実際に児童・生徒達に、体育・スポーツを指導するというカリキュラムを組んでいます。

実習受け入れ調整機関は、本学と学術交流協定を締結している、チュロンコン大学(バンコク)、カトマンズ大学(ドウリケル)、フィリピン大学テリマン校(マニラ)と、いずれも名門大学です。本学科での実践活動を国際社会へ出するための準備期間と位置づけるのであるならば、この海外での体育・スポーツ指導体験は、学生さんにとって将来に向けての第一歩となることでしょう。この4年間は、そのための確固たる礎を築くことに邁進してきました。

また、当学部所属の先生方はそれぞれの研究活動・指導活動の一環として海外とのコミュニケーションを豊富に持つっており、折に触れて異文化に対する見方や考え方を分かりやすく伝えたいと一丸となって熱意をもって取り組んでこられました。

Q2. いま、学科の「課題」として考えることはなんですか？

「スポーツ開発×スポーツが持つ力×皆さんの将来の夢」—— 私たちは、どれだけ近づけることができただろうか。これが、これまでの課題であり、これからの課題でもあります。4年間という限られた期間の中で、できることは、ごく限られています。漠然とはしていますが、今、目の前にある「やるべきこと」「しなければならぬこと」を見極め、一つ一つ解決していくことが、結果、夢の実現に繋がると信じています。

Q3. 在学生に対する評価や期待をお聞かせください

入学時に語学(英語)に自信のなかった学生さんを含め、ほとんどの人が、在学中にJICA海外協力隊の応募資格を満たすことができている。語学が得意ではない人は、「できない」のではなく、これまでスポーツに専念してきたため「やらなかった」だけだということの結果で示してくれました。

また、スポーツを通してこれまでに培った、学生さん

のコミュニケーションスキルは、他大学の学生さんにならばとても高いと感じています。

海外での活動は、動けば動くほど、社会的にも健康的にも危険のリスクは高まります。しかし、行動を起こさなければ、そこから先には進めません。命あつての活動であることを常に心がけ、何事にも積極的に挑戦してもらいたいと思います。

Q4. 今後の抱負をお聞かせください

新型コロナウイルス感染症は、国際関係の学部・学科を設置している大学に、多くの課題をもたらしています。しかしこのような状況だからこそ、スポーツをツールとし、国境を越え、互いに支えあうことが求められています。

スポーツ国際学科は、これからも、海外との繋がりを大切にしつつ、国内にいてもできることを模索しながら国際社会に通用する若者を鍛え上げる場にしたいと考えています。



金田 英子 教授

スポーツ文化学部 スポーツ国際学科長

専門は、国際保健学(国際学校保健)。青年海外協力隊(ネパール・体育)やJICA短期専門家(タイ・学校保健)などを経験。隊員時代に、ネパール教育功労賞受賞。

活かす ～OB・OGメッセージ～

OB

ドイツへのサッカー留学を経て、
楽天株式会社勤務



秋山 健氏

大学時代はサッカー部の活動に没頭して
いました。留学を決めたのは大学4年の夏
です。実は就職先が決まっていたのですが
留学を理由に辞退しました。就職を選ばず
に留学を選んだ理由は、まだサッカーで夢
を追いたいという気持ちと、「今やるべきこ
と」を最優先に考えた結果です。実際、ド
イツでは就職してからではできない刺激的
な経験をする事ができました。一番の思
い出は、目標のためにできると思ったこと
は何でもチャレンジしたことです。時間は有限
で何のために留学しているのかを考えたら
行動を躊躇する理由がありませんでした。
その結果、後悔なく帰国することができ
留学前はTOEIC300点ほどだった英

今やるべきことを考え、
就職ではなく留学を選ぶ



帰国後、楽天株式
会社に昨年10月に入
社し、研修で楽天やビジネス、ITのこと
など、幅広い分野について学んでいます。こ
の仕事は幅広い業界の経験を積める可能性
があること、チャレンジングな社風であるこ
とを理由に選択しました。
コロナ禍での帰国となり、就職活動の時
も、リモート面接ばかりでした。ただ、時
間とお金の節約にもなり、家だからできる

チャレンジングな 社風に 魅力を感じて



語力も825点まで伸ばすことができました
。留学中に現地の小学生が使う教科書で
基礎を学び、帰国後も2ヶ月間英語だけを
勉強したことで、就職にも有利となる英語
力を身につけられたと思います。
留学で学んだのは、「相手にきちんと伝
えること」です。日本には「察する」文化
があり、「曖昧さ」が美德だったりします。
しかし、特に海外ではみんなが理解してく
れるわけではありません。言葉にして伝え
ることで相互の理解も深まりますし、誤解
も減ります。海外で生活する中で、意見は
「人格」に対してではなく、「事柄」に対
しての表現であることを学びました。その
ため、例え口論のようになっても、友好関
係が崩れることはありません。その学びの
おかげで、言葉は選びますが、今は思った
ことを伝えるようにしています。



秋山 健(あきやま・けん)／体育学部体
育学科、2017年卒。
麻布大学附属瀧野
辺高等学校(現：麻
布大学附属高等学
校)出身。ドイツ・
デュッセルドルフへ
サッカー留学(2017
年4月～2020年2
月)。大学時代はサッカー部の活動に没頭。学校が
終われば、ジムに行ったり、アルバイトや遊びに行っ
たりと普通の学生だったとか。現在の趣味は朝のラン
ニング。

(後輩へのエール)
社会人になったらできないかもしれないと考
えて、学生のうちに行動してください。大学
生は社会的に身分が守られています。時間も
自分の都合に合わせて自由に調整ができま
す。将来のために今を大切にしましょう！

大学4年生のとき、就職内定を辞退してドイツへのサッカー留学を決意。
帰国後、留学で培ったコミュニケーション力を活かし、時代をリードする企業で新たなチャレンジを続ける。

チャレンジを続け、後悔しないキャリアを積んでいきたい。



海外体験をキャリアに

OG

中学校教諭を経て、ワーキングホリデーで
オーストラリア滞在中

浦谷 汐音 氏

海外で暮らすことが
どれほど大変か
経験したかった

オーストラリアのワーキングホリデー(以下WH)は、政府の定める農林水産業を一定期間行うことで、ビザの延長が最大2年可能です。私は1・2年目はファームでレタスやブロッコリー等の野菜の収穫や、ベリーやマンゴーの収穫・梱包等をし、ビザを延長して3年目の今に至ります。現地では、同じWHで来ている各国の人々と共に働き、郷土料理のパーティーをしたり、ClubやPubに行ったり、旅をしたりと、お互いに母国語ではない英語を使いながら友達を作り楽しく生活しています。

海外での生活に興味を持ったきっかけは家族旅行でした。旅行とはまた違う、その土地で働き・学び・暮らすことがどれだけ大変なのか挑戦してみたかったです。大学時代も同じでした。女子軟式野球部に所属し、素振りやティーバッティング、ノックなど、後悔しないようとにかくやることに全力を注いできました。

チャレンジしないことには
結果はわからない

チャレンジしてみると、経験が次々増え、様々なチャンスが巡ってきます。また、人との繋がり大切さも実感しています。母国ではない分、未知のことが山のように出



てきます。当たり前ですがすべて英語です。携帯や銀行の口座開設、ビザの申請、家探しや日々の仕事から生活全般まで、きつと一人だつたら頭を抱えている時間の方が多かったと思いますが、日本から来ている先輩WHの方に情報をもらつたり、世界各国の友達のアドバイスや価値観に助けられて今では何の不安もなく楽しんで生活しています。

ロックダウンによってレストラン等がクローズし、職を失い帰国した友達もいました。私は、コロナのピーク時にファームをやっており、特に大きな影響は受けず仕事ができいました。ただ、家族と離れて暮らしているため、心細く思うことも多々ありましたし、いつどこで何が起きるか分からないからこそ、大切な想いはしっかり伝えようと、今も頻りに連絡を取っています。

現在、新たなスキルの習得を目指し、ネイルサロンで働き学んでいます。自分にスキルがあれば、どの国や土地に行っても仕事

に困らず生活できると思ひ、ゼロからのスタートですが挑戦中です。チャレンジしてないことには向きも不向きもわからないので、自分で限界を定めずに多方面の分野に挑戦することで自身をレベルアップする!!
これが今の私の抱負です。そしてオーストラリアの主要スポットを制覇したいです。

(後輩へのエール)

『人生は一度きり死ぬ前に、後悔しない為にもやりたいことはチャレンジする』が大学時代から今も変わらず私のモットー。興味のあること・やりたいことは、どんな小さなことでも躊躇せずトライしてみてください。大きな出会いが待ってるかも!



浦谷 汐音(うらたに・しおね) / 体育学部体育学科、2012年卒。神奈川県立多摩高等学校出身。ワーキングホリデーにてオーストラリアに2017年10月から2021年7月まで滞在予定。滞在中の事件(?)は、運転中に170cm大のカンガルーが車に突っ込んだこと。自身で現地の保険会社や修理会社と英語で交渉したことも思い出とか。

限界を定めずに多方面の分野に挑戦し、レベルアップしたい。

中学校教諭を5年間務めた後、オーストラリアでの海外生活にゼロからの状態で挑戦。チャレンジしてみると経験が次々に増えていき、さまざまなチャンスが巡ってくる話です。

Next is us

日体魂の聖火リレー
～日体魂を受け継ぐ者～

15

ソフトボール男子

小山 玲央

エースとして大学選手権を3連覇
世界選手権でも過去最高の準優勝に貢献
卒業後は日本リーグでの活躍を誓う

怪我や悔しい経験、
その全てをバネにして、
世界のトップが見えてきた



ソフトボールが盛んな環境で育つ

小学校1年生の時に同級生から「一緒にソフトボールをやらないか?」と誘われ、地元のクラブチームに入ったのが競技を始めたきっかけです。出身である長崎県の小学校ではソフトボールが盛んで、野球よりもソフトボールをやっている子供の方が多くいました。ただ中学校ではソフトボール部がなく、野球部に入りました。

当時はソフトボールは小学校まで、将来はプロ野球選手になりたいと思っていたので、そのまま行けば高校でも野球部に入っていたでしょう。高校で再びソフトボールをやることになったのは、小学校の時の恩師に声をかけて頂いたからです。その方が、全国制覇の実績がある佐世保西高校の監督と知り合っていたのです。それならば高校での3年間、ソフトボールに打ち込んでみるのいいなと思って進学を決意しました。

高校時代、思い出すのは惜しげ

高校では全国総体での優勝などもしましたが、思い出すのはむしろ悔しさです。

まず1年生の冬、指を骨折して練習できない時期がありました。仕方なく毎日走ったり、下半身を強化するなどの基礎トレーニングに励んだ結果、春先の成績がぐんと上がりました。振り返って見れば、怪我して良かった面もあります。

高校1年の春の選抜をかけた真予選の決勝も忘れられません。先発するも初回に5点を取られて「コールド負けを喫しました。自分としては十分に仕上げできて、相手を抑える自信もあったのに打ち砕かれ…。しかし今となっては、あの試合でのショック、悔しさがあつたからこそ、今の自分があるのだと思えるようになりました。

男子ソフトボールに 注目!

今、日本はアンダー18チームが世界大会で優勝したこともあり、世界ランキングの一位です。他の競技同様ソフトボール人口も少なくなってきたはいますが、中でも何とかメジャーにしたいという思いで選手も含めて頑張っています。

◆プロフィール

小山 玲央(こやま れお)

長崎県佐世保市出身、長崎県立佐世保西高校卒。小学生からソフトボールを始め、佐世保西高校では全国総体で優勝を果たす。日体大に進学し、1年生から活躍。2年生の全日本総合選手権では史上初の大学生チームの優勝という快挙を成し遂げる。男子ソフトボールの日本代表チームにも招集され、世界選手権では過去最高となる準優勝に大きく貢献。在学中は全日本大学選手権(インカレ)を3連覇。最後の年はキャプテンとしてチームを引っ張り、中止となったインカレの代替大会にも優勝。連覇の更新を後輩に託し、自身は日本リーグの強豪である平林金属株式会社に新たな活躍を誓う。



ソフトボールと野球との違い

「見ると似ているソフトボールと野球ですが、実際に競技をしてみると違いもあります。一番の違いは、塁間の距離です(野球の塁間は27.431m、ソフトボールの塁間は18.29m)。塁間が近いいためボールを取ってから投げるまでのスピードが早く、ピッチャーからキャッチャーへの距離も近い(野球は18.44m、ソフトボールは男子が14.02m、女子が13.11m)、ボールの体感速度は野球以上。男子ソフトボールではその特有のスピード感も野球にはない魅力です。

武器はカットボールとライズボール

下から浮き上がってくるボールをライズボールと言い、自分の決め球にもなっています。ボールに上向きの回転をかけることで、浮き上がっているように見える投球です。ただ自分は小学校の頃は投げられず、高校でも浮き上がるボールを投げるまでには、かなりの時間がかかりました。

スピードが出るのはカットボールです。これまで投げた中で最も速かったのは、世界選手権で出した135キロ。これは世界最速の部類です。それでも海外の強豪を相手にすると、結構打たれてしまいます。

男子の日本代表の一員として

これまで男子のトップは、5位入賞より上に行けない「5位の壁」が続いていました。しかし去年、参加させて頂いた世界選手権では過去最高の準優勝を達成。世界一を狙える位置まで来たと感じました。

ここで世界のトップレベルの選手たちと対戦できたのも、競技人生における大きな経験です。日本と違って海外のバッターは「打って打って」のような強攻が多く、パワーで詰まってもいい所に持っていられる怖さがあります。ブンブン振り回してくる相手には、ボールの速さに加え、緩急やコントロールを付ける対応が必要です。そうして力を出し切れれば、自分のボールが世界に通用すると思えた大会でした。

小山 玲央



——レベルアップを目指して日体大へ

高校2年生の冬、当時の監督から日体大に來ないかとお話を頂きました。自分としても卒業してすぐに実業団チームに行くより、もっとレベルアップしてからという思いがありました。高校の監督が日体大のOBで、その実績も伺っていたので、大学で一番強い日体大に行こうと決めていました。初めて大学生のプレーを見た時は、高校生とは違うスピードやパワーを実感しました。そんなレベルが高い中でも、1年生から大事な場面に起用されたことは大きな自信になりました。

——大学時代に印象に残った試合は？

まず1年生のインカレ決勝です。相手の国士館大学はリーグ戦でも0点で押さえたことがなく、先発を任された決勝でも失点を許し、最後まで投げられませんでした。同じく1年生の時、全日本総合同じく、大学生や実業団の垣根を超えて日本一を決める大会の1回戦で、宮崎の旭化成と対戦しました。自分が4回までゼロで抑え、その後は継投で最終回の2アウトまで勝っていたのですが、そこで同点のホームランを打

たれ、結局延長戦で負けてしまいました。

自分ももう少し信頼されるピッチャーだったら、7回まで投げて勝っていたかも知れません。それが心残りです。

一番嬉しかったのは、大学2年の全日本総合で学生初の優勝ができたことです。特に印象に残っているのは準々決勝のホンダエンジニアリング。相手のピッチャーがアンダー19のチームメイトで、高校の頃から良きライバル関係で切磋琢磨していた選手だったのです。そこでしっかり投げ合い、投げ抜いて勝てたのが嬉しくて、印象に残っています。

——チームのキャプテンになってからは？

新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止になる中、インカレの代替大会を開催して頂き、そこで日本一になれたのは嬉しかったです。モチベーションが上がりにくい状況でも日頃の練習から周りをまとめ、最後に結果が付いてきたのは、キャプテンを務めて良かったと思いました。チームとしてはコーチの方がアドバイスをくださり、いくつかのグループに分かれてティスカッションを行いました。そこで新しい1年生ともしっかり会話や交流ができ、全員がソフトボールのことを考えて取り組めたので、練習が再開された時にスムーズに気持ちを切り替えられたと思います。

——メンタルの強さの秘密

いい意味で自分は何も考えていないというか、他のピッチャーだったら慌てたり不安になるような場面でも、点を取られたら取り返せばいいと前向きに考えます。今まで練習でやってきたことも自信に繋がってい



るので、腹を括って投げられるんです。そもそも試合の出どころはピッチャーなので、そこがあたりふたしていたら周りに迷惑がかかります。自分は人一倍強いメンタルを持たなくてはいけないと思っているので、それがピンチに負けない気持ちに繋がるのではないのでしょうか。

——今後の抱負や後輩へのメッセージ

今年の代替大会も後輩にはとても助けられました。4年生だけで優勝できるものではないですね。しかし大会が正式なものではない以上、チームの目標であった4連覇は達成できていません。自分たちができなかった4連覇に向け、頑張ってもらいたいです。

私自身は卒業後は岡山県の平林金属株式会社に入社します。ここには日本でもトップクラスのソフトボールチームがあり、練習環境も整っています。そこでもう一度、自分のソフトボール人生を1から歩んで行くつもりです。そして、いつか全日本総合の決勝で日体大と日本一をかけて対戦するの

負けない気持ちに、 練習できない期間も乗り越えた 後輩に託す大学選手権4連覇



Next is us
日体魂の聖火リレー

小山玲央選手からエールをいただきました。
コロナもなかなか収まらない中、モチベーションを保つには目標を持つことが一番大切です。目標がなかったら、何のために頑張っているのか分からなくなってしまいます。他人にどう思われようと、自分の目標をしっかり持つ。そうすることで競技力やモチベーションは上がっていくと思います。
また、延期はされましたが2021年には東京五輪が開催される予定です。一生に何回もあることではありません。楽しむことはもちろん、自分が関わる競技のトップレベルの選手を間近で見られるチャンスです。ぜひ機会を活かして勉強してください。

UNIVAS CUP / UNIVAS AWARDS 2019-20受賞!



大学スポーツ協会UNIVASによる表彰制度『UNIVAS AWARDS』の記念すべき第1回目に本学の学生が受賞されました! このUNIVAS AWARDSとは、競技成績のみならず、学業充実や安全安心、大学スポーツの盛り上げ等に著しい成果をあげ、UNIVASの理念の体現に貢献をした

学生アスリートやスポーツに関わる学生、OB・OG、指導者、団体を選出し、大学スポーツ全体の活性化に繋げることを目的としています。

本来、3月27日(金)に東京プリンスホテルにて全国から参加いただき表彰式及び懇親会を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、残念ながらインターネットによる優秀賞の紹介と最優秀賞の発表を視聴する形式に変更されました。

そこで、本学では素晴らしい功績をあげられた本学の各受賞者・受賞団体に対して独自に表彰式を開催いたしました。

《UNIVAS CUP 2019-20受賞一覧》

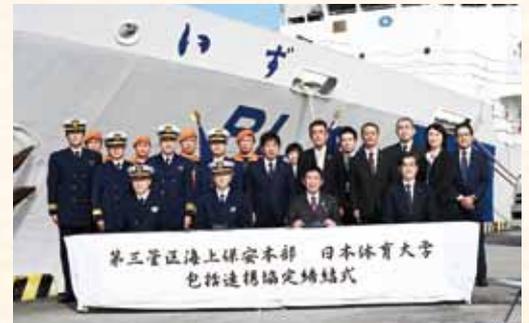
総合ランキング	第2位
男女別ポイント獲得数	男子競技部門 第3位
男女別ポイント獲得数	女子競技部門 第1位
男女別競技優勝回数	男子競技部門 第1位
男女別競技優勝回数	女子競技部門 第1位
8地区別ポイント獲得数	関東地区 第2位

《UNIVAS AWARDS 2019-20受賞一覧》

ウーマン・オブ・ザ・イヤー(ゴルフ部)	木村円さん
パラアスリート・オブ・ザ・イヤー(陸上競技部)	菟澤朋美さん
安全確保に関する優秀取組(ラクロス部)	
大会・プロモーションに関する優秀取組賞(スポーツマネジメントサークル)	
サポーティングスタッフ・オブ・ザ・イヤー(ハンドボール部)	五次ほのかさん

第三管区海上保安本部と包括連携協定を締結いたしました!

令和2年11月30日(月)、横浜市中区にあります横浜海上防災基地におきまして、本学は第三管区海上保安庁本部と包括連携協定を締結いたしました。これは、本学の保健医療学部救急医療学科及び大学院保健医療学研究科 救急災害医療学専攻が海上保安庁第三管区海上保安本部と両者の強みを活かして、教育・人材養成、調査研究で協力していくことを目的として締結したものです。大学が研究する理論と、海上保安庁が日頃業務として行っている実践が融合し、今後、海難救助や海難事故防止、災害医療の分野において、大きな貢献に繋がることを期待されます。当日は、締結式と併せて特殊救難隊によるヘリコプターからの吊り上げ救助訓練が実施され、また、横浜海上防災基地の施設見学もさせていただきました。



伝説のゴルファー【ジャック・ニクラス氏】よりゴルフ部にメッセージが届きました!



ゴルフをメジャースポーツにする牽引力となった人物で圧倒的な強さと、トレードマークの金髪により「ゴールデン・ベア」(熊)と称され、日本では「帝王」と呼ばれ、史上最高のゴルファーとも称されるジャック・ニクラス(Jack Nicklaus)氏より本学ゴルフ部に激励の手紙が届きました。

また、体育学部2年中島啓太選手へ「三井住友ビザ太平洋マスターズ」での活躍が賞賛されました。今回のメッセージは、ゴルフ部のユニホームのサポートをして頂いている株式会社コスギ様を通じて送られました。

